

第5回生物の多様性を育む農業国際会議(ICEBA)2018



ICEBA 2018
The 5th International Conference for
Enhancing the Biodiversity in Agriculture

第5回生物の多様性を育む 農業国際会議

in いすみ市

平成30年
7/20(金)21(土)22(日)

会場: 岬ふれあい会館 (JR長者町駅近く)

参加費無料
農業現地見学・各エクスカーション・要覧集・お弁当・スローフード交流会は費用がかかります

同時開催

第13回
日韓田んぼの生きもの
調査交流会

特別ゲスト
木村 弓
(きむら ゆみ) さん
歌手・作曲家
映画『千と千尋の神隠し』
主題歌『いつも何度でも』

来て・見て・味わう
いすみのせいぶつ文化たようせい

「生物多様性を育む農業現地見学」
「エクスカーション SATOYAMA SATOUMI ORGANIC LIFE」
「スローフード交流会」の開催「有機産物販売」後援(上映)
「土」 ICEBA 農業地帯研究委員会 「水」 NPO法人 いすみライフスタイル研究所
「食」 一般財団法人 地域活性化センター

この事業は、公益財団法人 環境にやさしい社会づくりの推進を目的として、農業者、独立行政法人 農業農村政策総合研究センター、独立行政法人 農畜生産技術センター、独立行政法人 農業農村政策総合研究センターの協賛を受けています。



歌手・作曲家 木村弓さん



FAO模範農業者賞受賞者の
大津愛梨さん



有機農業100%を目指す
ブータンからの報告



学校給食の有機化をはじめと
する5つのテーマの分科会

(主催) 第5回生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA) 2018実行委員会 (委員長 いすみ市長 太田 洋)、自然と共生する里づくり連絡協議会
(後援) 農林水産省、環境省、国土交通省関東地方整備局、千葉県
公益財団法人 河川財団の河川基盤と、公益財団法人 日本環境コンベンションビューローのコンベンション開催助成金の助成を受けています。



3日間でアジア各国1,050人が来場



生物調査はじめ5つの現地巡回



環境に配慮した農産物のブランド化



2kgパック1,598円(税込)

公益的な視点を活かしたブランド戦略



首都圏のイオン
20店舗で販売中

JAL国内線ファーストクラスのおもてなし
日本各地の名店プロデュース機内食
千葉県
～初秋を彩る地元食材を創作日本料理で～



Japan Airlines adopted the rice as in-flight meals of
first class (2016)
日本航空ファーストクラス機内食に採用



AEON

■2019年の水稻有機栽培 収量アップに向けて

目標：生産量の拡大 → ①反収の向上

↓
②面積の拡大

③会員(有機農家)を増やす

反収向上策：2つの新たな技術を導入、実証する

○抑草および発芽雑草対策

タイプ1「ポット苗＋ミッドマウント式除草機」



+



○生育向上対策

タイプ2「土壌分析に基づいた施肥設計、秋処理、ミネラル、アミノ酸肥料、微生物
＝BLOF理論に基づいた栽培理論」

園芸作物の有機栽培推進 について

■土着菌完熟堆肥で野菜の有機栽培も推進

いすみ市土着菌完熟堆肥センターの設立 2017年

- 地域の未利用資源を活用して循環型の有機農業を促進
- 水稻だけでなく小規模多品目の野菜でも有機栽培を推進していく



オーガニックビジネス実践拠点づくり事業 いすみ市 2018年

これまで点と点のつながりだった有機野菜のプラットフォーム化に取り組む



栽培技術・経営力の向上に向けた取組



土づくり実証(太陽熱養生処理/BLOF理論)



栽培講習会(土壌分析法/BLOF理論)



ベテラン農家による栽培指導

2018年度の成果(有機野菜)

新規参入者2名、転換者1名を確保 面積H29 0.1ha → H30 0.4ha

■学校給食へ有機野菜を導入

学校給食有機野菜供給体制構築事業 2018年～

- 給食センターの現体制で無理なく使用できる品目から優先
2018年度は、有機ニンジンと有機コマツナで試行

通常の給食野菜の流れ



いすみ産有機野菜の流れ

品目選び～作付け、納入まで、定例会で協議 事務局：農林課



作付け・出荷調整会議



学校栄養士による生育確認